

## 令和元年度老人保健健康増進等事業

### 農福連携による高齢者の健康増進・生きがいづくり・社会参加と農山漁村の活性化の支援に関する調査研究事業

一般社団法人 J A 共済総合研究所

少子高齢化や過疎化により、高齢者の生活そして地域の維持が困難な状況にあるが、高齢者が自分らしい人生を最後まで送ることができる地域包括ケアシステムの構築、地域の維持・活性化が求められている。一方、これまで高齢者は、地域において介護保険や医療サービス等を受ける対象と位置づけられているが、こうしたサービスを受けながらも家や地域に役割を持ち、貢献することも可能である。だが、そうした実態やニーズについては必ずしも十分把握されているとはいいがたい。また障害者は近年広がる農福連携の中で役割を担うことが示されているが、高齢者も介護や医療現場での農業活動を通じたりハビリやレクリエーションの機会を得るだけでなく、農業活動に従事し地域を支える機会を創出することができれば、地域に貢献し、さらには自らの健康増進・生きがいづくり・社会参加の機会を創出することが可能と考えられる。だが、高齢者にかかる農福連携（六次産業化含む）に関するこうした取組みについては実態が十分把握されていない状況である。

そこで本事業では実態を把握するためにアンケート調査・ヒアリング調査等を実施した。アンケート調査では、行政の状況を把握するために中国四国地域の全 202 市町村を対象に調査し、高齢者福祉担当部署調査では 98 市町村（48.5%）、農政担当部署調査では 83 市町村（41.1%）から回答を得た。また現場での取組み状況を把握するため同地域の 1,108 社会福祉法人に調査票を発送し、362 法人から回答（32.7%）を得た。さらに文献調査・アンケート調査等から優良事例 9 つを選定し、ヒアリング調査を実施した。

その調査結果を踏まえ、地域における高齢者の農業活動への参加のあり方、高齢者にかかる農福連携モデルなどについて検討した。得られた主な成果は、以下の通りである。

- 農福連携の認知状況はまだ低い。
- 高齢者の農福連携の取組みはまだ少ない。
- だが、農業活動を行うことによって高齢者の身体・精神・認知状況へ一定の効果がみられ、また生きがいづくり・レクリエーション・癒し・コミュニケーションの向上にも繋がっている。
- さらに、高齢者の社会参加の機会、新たな収入となったり、地域農業の振興に貢献にもつながっている。
- 農業活動は農業・農的活動に分かれ、農業はさらにゆるやか農業に分かれる。
- 高齢者の農福連携の取組みは 4 つのパターンがある。1) リタイヤ農業者型農業、2) 定年退職者型農業、3) 介護予防型農的活動、4) 介護サービス型農的活動。そしてその広がりとして林業・水産業・エネルギー産業、6 次産業化、共生がある。
- 元気高齢者と要介護認定高齢者が農的活動およびゆるやか農業を行うこと、さらには 6 次産業化を図ることで、高齢者はリハビリテーション・レクリエーション・健康づくり・生きがいづくり・介護予防等を実現し、さらにゆるやかな就農によって役割果たすことで農業や地域に貢献することが可能である。
- 今後、高齢者の農福連携を普及していくためには、段階に応じた展開・支援が望まれる。「①知る、②連携する、③取り組む、④広げる」取組みが重要。

成果については報告書配布・ホームページでの公表に加え、意識啓発のためのパンフレットを作成し全国市町村高齢者福祉担当等へ配布し、また成果は新聞にも掲載された。